

岡部定一郎「福岡城寸描」(30)

黒田24騎小傳(3)

黒田 利高 (兵庫助)

生没年：天文23年(1554)～慶長元年(1596)

位置付：親族一門(八虎の一人)

禄 高：1万石

黒田職隆の次男で、黒田官兵衛孝高(後の如水)の弟にあたる。

母は、兄孝高と同じ明石氏。妻は、齊藤家より迎える。

名前は、初めは「小一郎」、のち「兵庫助」と改める。

当初は、羽柴秀吉に仕え、九州平定(天正15年 1587年)で活躍した。その功により、官兵衛孝高の中津藩主(12万3千石)時代に、高森城代(大分県宇佐市)として1万石を賜る。

その後、初代藩主となる長政を助け、文禄の役にも従軍し活躍する。その疲れか、帰国後病身となり、療養のために大阪へ上り、没する。

甥で年下の長政が藩主になった時、長政の駕籠に出会った利高は、馬から飛び降りて平伏し、家中の諸士に手本を示したと言われている。思慮深く、心の大きな人物であった。



黒田利高の博多人形(ふくおかフィナンシャルグループ1階に展示)

家紋



二重亀甲に唐花